

7 平成 24 年度 横浜市立図書館の目標と振り返り

基本目標 : 横浜市立図書館は、社会情勢・環境の変化に対応し、市民生活を支援します。

基礎指標	入館者数 6,860,460 人(対前年度同月比 98.5%) 新規登録者数 63,972 人(対前年度同月比 101.6%) 貸出冊数 11,422,479 冊(対前年度同月比 100.5%) レファレンス受付件数 218,288 件(対前年度同月比 103.6%)	数値はすべて平成 25 年 1 月 31 日現在
------	---	--------------------------

目標 1 司書の専門性を発揮したサービスを充実します。		<サービス目標>		
取組項目	具体的取組	実施状況	指 標	評価
蔵書再構成 5 年計画の実施	<ul style="list-style-type: none"> 参考図書や定番図書など市民の課題解決に役立つ資料の重点収集を継続します。 寄贈図書の積極的受入を推進します。 資料のデジタル化及びその公開を推進します。 地域資料を積極的に収集、整理し活用を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民、職員や地域団体、企業、大学などから寄贈を受け、また寄贈キャンペーン等を行い積極的に寄贈を受け入れました。寄贈冊数は昨年度より増加しています。 地域情報基盤整備を新規に 4 館(南、港南、磯子、金沢図書館)で行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 寄贈図書の受入冊数(42,394 冊、対前年度比増) 郷土資料のデジタルアーカイブでのアクセス件数(対前年度比増) 地域情報基盤整備実施館数(新規 4 館) 	B
子ども読書活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> 子ども読書活動の支援を充実するため、おはなし会やブックトークなどの企画事業を実施します。 保護者・保育者・ボランティア等対象者に応じた読み聞かせ講座を開催します。 児童サービスの向上のために、司書を対象とした児童サービス研修を実施します。 教職員や学校ボランティア等による学校図書館運営・環境整備を支援するとともに、学校での読書活動推進に役立つ情報提供を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 春・夏・秋には全館統一キャンペーンを行い、子どもの読書活動・調べ学習支援に取り組みました。 保護者向けの読み聞かせ講座を実施しました。また、乳幼児健診でわらべうたや初めて出会う絵本を保護者に案内しました。 学校図書館・学校ボランティアへの支援を行い、子どもの身近な読書環境の整備を支援しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書活動や調べ学習を支援する事業の実施回数・参加人数(1,346 回・30,265 人。対前年度比回数 125.3%・人数 101.7%) 保護者・保育者を対象とした読み聞かせ講座の実施回数・参加人数(130 回・2,454 人。対前年度比増) 読み聞かせ等ボランティア講座の実施回数・参加人数(75 回・1,560 人。対前年度比増) 教職員や学校ボランティアの支援件数(1,175 件。対前年度比増) 教職員向け貸出冊数(セット貸出含む)(40,465 冊。対前年度比増) 	B

取組項目	具体的取組	実施状況	指標	評価
市民の学習活動・課題解決の支援	<ul style="list-style-type: none"> レファレンス体制を充実させ、市民の課題解決を支援します。 大学・研究機関・関係局区等との連携を進め、レファレンスサービスを強化します。 市民の学習活動や課題解決を支援するため、様々な講座や企画展示等を実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学や研究機関、庁内の様々な部署や団体と連携し、展示・講座・講演会を実施しました。 就労情報コーナー、地域観光コーナー、子育て情報コーナー、外国語資料コーナーなど課題解決に役立つコーナーを設置しました。 	<ul style="list-style-type: none"> レファレンスサービス向上のための取組を地域図書館でモデル実施(5館) 市民向け講座・企画展示の実施(588回、対前年度比増) 	B
地域と連携した読書推進活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地域で活動するボランティア向けの講座の開催や地域の読書施設の運営相談を行います。 図書館で活動するボランティアの支援や育成を行い、市民との協働による活動を進めます。 地域と連携した企画事業を実施し、地域とともに読書推進活動を充実します。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア養成のための講座を実施し、地域の読書支援につながる市民を支援しました。 図書館ボランティアは全館で導入し、研修・交流会を行い技術や知識の向上を支援しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 修理等ボランティア講座の実施回数・参加人数(55回・894人。対前年度比増) ボランティア活動回数・参加人数(1,684回・5,990人。対前年度比回数 129.1%、人数 116.2%) 地域と連携した企画事業の実施(266回。対前年度比 236.4%) 	B
多文化サービスの展開	<ul style="list-style-type: none"> 外国につながる子どもたちの図書館利用を進めるため、市民と協働して外国語での見学会等の企画事業を実施します。 多言語による利用案内、掲示等を充実します。 	<ul style="list-style-type: none"> 多言語によるおはなし会などを実施し、外国につながる子どもたちの読書活動を支援しました。 市民と協働し、外国文化を紹介する展示を行い、また多言語の市民向け案内での情報発信をしました。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国につながる子どもたちを対象とした事業件数・参加人数(12回・231人、対前年度比回数 205.7%) 多言語による利用案内及び館内掲示の整備等の実施件数(4館で実施、対前年度比 133.9%) 	C

目標2 効率的で効果的な図書館の管理運営を推進します。 <管理運営目標>				
取組項目	具体的取組	実施状況	指標	評価
司書人材育成計画に基づく人材育成の推進	「司書人材育成計画」等に基づき、司書の専門性向上と人材育成に係る研修等を計画的に実施します。	キャリアに合わせた研修を行い、専門性の向上に努めました。また司書が講師となり研修を行うことで、業務で身につけた知識の継承と講師としての技術向上を実現しました。	基礎研修及び専門研修の実施(年間30回実施)	C

取組項目	具体的取組	実施状況	指標	評価
地域図書館の管理運営手法の総合的検討	山内図書館指定管理者選定評価委員会を開催します。 (中央図書館、年3回程度)	山内図書館指定管理者選定評価委員会を3回開催し、指定管理者の平成23年度における管理業務を評価・公表しました。	評価報告書の公表(11月)	C
	司書補助業務委託導入館(都筑図書館・戸塚図書館)について、平成23年度実施状況に関する評価を行います。	司書補助業務委託を導入した都筑図書館・戸塚図書館において職員アンケート等を実施し、導入成果を検証しています。	司書力を活かした図書館サービスの向上及び効果的な図書館運営についての評価の実施(12月)	C
	地域図書館の管理運営に関する評価方法について、館内プロジェクトによる検討を行います。	地域図書館長によるプロジェクトを設置し、地域図書館の今後のあり方などについて検討を行っています。	・地域図書館の管理運営に関する評価手法検討プロジェクトの設置(5月) ・プロジェクトによる検討結果の報告(平成25年2月)	C
市民の意見が反映される仕組みづくり	利用者懇談会・ボランティア団体等の交流会等の実施を踏まえて、市民の意見を反映できる仕組みづくりを推進します。	全地域図書館で交流会・懇談会を実施し、市民からの意見を積極的に運営等に取り入れました。	市民との意見交換会の開催(各地域図書館で実施)	C
身近で便利な図書館サービスの充実についての検討	駅における図書館サービスの検討及びモデル事業実施に向けた調査・計画の検討を行います。	駅における図書館サービス機能の検討及び整備計画検討に向けた基本計画調査を実施しました。		C
市立図書館における業務内容の見直し	・自主財源の確保及び経費の節減を図るため、広告事業等歳入確保についてより積極的に検討を進めます。 ・業務改善や運用の見直しを踏まえた詳細設計に基づき、図書館情報システムの更新を実施します。 ・図書館情報システムの更新に伴い、円滑にサービスを行うために業務手順の見直しを実施します。 ・委託業務のより効率的な運用を進めます。	・雑誌広告、図書貸出用袋の提供などを受けました。 理化学研究所、市内企業との協働により自主企画事業経費を削減しました。 ・図書館情報システムを更新し、円滑な運用に努めました。 ・業務手順を見直し、サービスの向上に努めました。	・広告導入等による歳入確保額および節減額 8,099 千円(対前年度比 82%) ・図書館情報システム更新の実施(平成25年1月) ・業務要綱・要領等の見直し(平成25年1月)	C

目標3 市民にとって利用しやすい快適な図書館づくりを進めます。			＜独自目標＞	
取組項目	具体的取組	実施状況	指標	評価
市民への広報の充実	様々な広報媒体を効果的に活用し、わかりやすい情報提供を進めます。	ホームページの更新を随時行い、情報発信に努めました。計画的な広報活動を行い、TV、新聞、タウン紙、情報誌、ウェブサイトなどで情報を発信しました。	・記者発表数 30 件(対前年度比 71.4%)、広報掲載実績 667 件(対前年度比 226.1%) ・ホームページアクセス件数 6,366,623 件(対前年度比 103.8%) ・メールマガジン登録者数 654 人(対前年度比 151.4%)	C
利用しやすい図書館環境の整備	・図書館における窓口サービスの向上について職場で討議し、具体的な目標をあげて取り組みます。 ・市民の視点に立った窓口サービスについての意識や接客スキルを高めるための研修を行います。 ・書架や施設の案内について、わかりやすい掲示を行います。	・書架の配置の見直し、サインの刷新などを行い、利用しやすい環境を整えました。 ・市民からのご意見を職員で共有し、サービスの全体的な向上に努めました。	・サービス向上のための目標の設定・取組・振り返りの実施 ・サービス向上の研修への参加(全職員)	C
図書館危機管理体制の充実	・地震等の災害発生に対応する危機管理体制を充実します。 ・港北図書館の耐震補強・再整備について、実施設計を行います。	・各図書館で防災訓練を実施し、また泉図書館では警察署との連携、中央図書館では帰宅困難者対策などを進めました。 ・港北図書館の耐震補強・再整備について実施設計を行いました。	・帰宅困難者対策を含めた災害時の市民対応の充実 ・防災訓練の実施(各図書館・年間2回)	C
節電・省エネルギーの推進	空調・照明等の適切な管理を行い、エネルギー消費量を削減します。	節電に取り組み、電力使用量を削減しました。鶴見図書館では電球の LED 化工事を実施しました。	電力使用量平成 22 年度比減	C

※ 取組の評価について

評価は、図書館内の内部評価です。() 内は、前年度比です。

評価	内容
A	優れた取組があり、目標を大きく上回る成果があった。
B	目標どおり取組を実施し、目標を上回る成果があった。
C	目標どおり取組を実施し、一定の成果をあげた。
D	目標どおりの取組ができなかったため、十分な成果を上げることができなかった。
E	実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。